

あけぼの

発行
西区人権尊重連絡会議
(事務局)
西区生涯学習推進課
(☎895-7026) (FAX882-2137)

令和六年度「西区人権を考えるつどい」

トーク&コンサート

「うまれてきてくれてありがとう」

講師 子育てシンガー mon さん



令和6年8月28日(水)、市民センターにて、子育てシンガーmonさんをお招きし、「うまれてきてくれてありがとう」と題したトーク&コンサートを、西区人権尊重連絡会議、西区役所及び西市民センターの主催で開催しました。

6人きょうだいの末っ子として育ったmonさん。子どもの頃は優しい祖母に育てられ、すくすくと成長しましたが、小学校に入ってから、在日韓国人であること、また、ADHD(注意欠如多動性障害)により他の子ども達と違う特徴があったことで、いじめを受けていました。

しかし、小学校3年生のときに転機が訪れます。それは、monさんの行動を優しく受け入れ、褒めてくれる先生に出会ったことです。先生のmonさんに対する行動を見た周りの子ども達も、monさんに対する行動を変えていきます。しだいにmonさんへのいじめをしなくなっていくのです。

monさんはこの小学校の時の経験を通して、「大人には、子どもが好きなこと・頑張っていることを応援し、周りと上手くつながりを持たせることで、子ども達が生き生きと生きていけるように手助けできる、素敵な役割がある」というメッセージを伝えてくれました。

今から8年前、monさんが大好きだった姉の早すぎる死という悲しい出来事が起きてしまいます。しかしmonさんはこの出来事から、「今を大事に生きる」ことの大切さ、「幸せはみんな平等にある」ことを感じます。「今ある幸せをいっぱい感じてほしい」「大人が子どもに残せるのは生き方」であり、「大人は子どもに、大好きな生き方を伝えてください」と、来場者に対して感情豊かに素直な自分の気持ちを語ります。

小学校3年生の時に出会った先生が、自分の良いところも悪いところも含めて全て受け

止め、話を聞いてくれたおかげで、「自分にも居場所がある」「自分はここにいてもいいんだ」と思うことができ、救われました。今日、このつどいも参加してくれた皆さんが、話を聞いてくれ、受け止めてくれたから話すことができました。今日は私の居場所を作ってくれてありがとうございました。最後まで、最後まで話を締めくくられました。

トークの間には、「短い愛の歌」「タカラモノ」「ほんとはね」「この手の中の幸せ」といった曲を歌っていただき、美しい歌声は静かに会場の皆さんの心に響きました。

【参加者の感想】

○すばらしい講演会でした。もっと聞いていたかったです。monさんの体験・経験からくる言葉、歌声は心にしみてきました。涙が止まりませんでした。

○自身の体験をもとに話をされたので身近に感じられ、自分の体験に重ねることができ、人権に関する理解が深まりました。monさん、ご講演ありがとうございました。

○monさんのユーモアあふれる語り口のおかげで大切なことをわかりやすく学ぶことができました。貴重な人生経験をシェアしてくださりありがとうございました。また機会があればコンサートや講演会にうかがいたいです！

○久しぶりに、monさんの話と歌声を聞きました。monさんがつくる空間が大好きです。子どものころのmonさんが、大好きな大人に出会えて、根っこが広がって、幸せをたくさん感じて、それをまた周りに広げていっている。私も幸せをもらいました。ありがとうございました！

第五十三回「人権を尊重する市民の集い」

「ライブ人生相談 万事OK!」

「日々の悩みから人権を考えていきましょう」

講師 詩人 伊藤比呂美さん



令和6年12月6日(金)、西市民センターにて、詩人伊藤比呂美さんをお招きし、「ライブ人生相談 万事OK!」(日々の悩みから人権を考えていきましょう)と題し、人権を尊重する市民の集いを開催しました。

ご存じの方もおられると思いますが、伊藤さんは、西日本新聞で長年人気の連載コーナー『人生相談 比呂美の万事OK』を担当しています。

今回の市民の集いでも、人生経験豊かな伊藤さんが、会場の参加者から寄せられた相談にその場で答えていく、さながらライブのような講演が繰り広げられました。

母との同居に悩む娘からの相談、子育てが終わりこれからどう生きていくべきか、という相談や、遺産を巡る親族とのトラブル、親の介護に関する相談、家族との距離感に悩んでいる方からの相談、今の住み慣れた場所から離れたくないが、先のことや孫を思うとどうしたらよいかわからない、孫を抱くことなく人生を終わることが残

念という相談など、様々な悩みや相談に対して、ご自身の経験やエピソードを紹介しながら、相談者の気持ちに寄り添うように、時にはユーモアを交えながら次々に回答していただきました。

親の介護に関する相談では、ご自身の体験も交え伊藤さんは言われます。「粛々」という言葉があります。と。「粛々」とは、そのまま、真つ直ぐ、急ぎもせず、ただ行けるだけの速度で行くことだ。介護は親のためでもあるけれども、自分自身へのためでもある。介護で一番大切なものは後悔する気持ち。後悔しない介護はない。自分がやれるだけのことはやる。でも、できないことはしない。それでいいんだ、と。

伊藤さんはご自身の人生相談は、他の人生相談とは次にあげるような点が違うといいます。それは、必ず横に座って話を聞くようにして話を聞いて、その人のことを考えて相談を受ける、ということ。だから時間がかかる。しかし、相談者は他に相談する人がいなくて私のところに持ってきている、もし私がその人を否定してしまったら、もしかしたらその人は命を断とうとするかもしれない、いつもそう思っただけでいるのです、と。

1週間に1回、人生相談に答えるようになって26年、人の悩みを毎週毎週考えていると、その人の人生も一緒に生きているように感じる。それだけの悩みがある。それだけの解決方法も

見つかる。だから人生相談は自分にとっても大変いいのだ、と。

即興でテンポよく進む人生相談に会場は大いに盛り上がり、時間を忘れて伊藤さんの話に引き込まれ、あつという間に講演会は終わりの時間をむかえました。伊藤さんは「人権とは自分らしく生きること」と言われます。まさにそれを実感するとともに、人に寄り添うことの大切さを感じられる心に響く講演会でした。

【参加者の感想】

○比呂美さんのことは新聞の文章からもきつと親しみやすい方だろうなと思っていました。が、講演会でやはりとても面白い方だとわかり、ますますファンになりました。ありがとうございました。

○人権については折に触れ、勉強させて頂いております。その中で、これはどうということなのか、と思うことがあったり、共感出来たり、色々ですが：今日はとても心に響くことがあり、涙しました。ありがとうございました。

○とても良い講演でした。皆、何らかの悩みがありながら生きている。人には分かりませんけどね。大きな病気を経て「粛々」と生きています。自分で出来ることはする。出来ないことはしない。後ろめたさを感じなくていい、と思っと思っています。人生なんとかなる、と思っ生きています。

○伊藤さんの人に寄りそつて暖かい言葉に涙が出そうになりました。

○「自分が自分らしく生きる。人が自分らしく生きるのを妨げない。」とても大切なことだと思った。



人権が尊重されるまちづくりをめざして

「明るくやさしいまちづくりをめざして！」
新しい人尊協の活動を模索して！
西陵校区人権尊重推進協議会

西陵校区人権尊重推進協議会は平成5年に下山門校区人権尊重推進協議会から人口増加に伴い分離独立しました。基本的な人権を尊重し、ともに楽しく生きることのできる社会をつくることを目的として、誰もが気軽に参加し、人権問題への理解と関心を深め、人権の大切さについて考えるための活動をしています。

校区の28の自治会や団体で構成されており、以前は人権学習や講演を中心に活動していましたが、最近はそれに加え人権コンサートやDVDを使った映写会、フィールドワーク等に入力を入れています。

また、毎年人権標語(西陵小学校児童と西陵中学校生徒)を募集し、優秀作品を載せた人権啓発グッズを配布したり、公民館だよりで毎月掲載しています。



人権コンサート
(ボーカルユニット foo)



令和6年フィールドワーク
(名護屋城跡)

「人権と福祉がいきづくまちいま」

今津校区人権尊重推進協議会

今津校区人尊協では毎年フィールドワークを行っています。「実際に人権に関わる場所に行ってみよう」との思いで行っているものです。

今年度は嘉麻市にある碓井平和祈念館に行きました。施設に入る前に「平和の火」を見学し、施設の中では展示資料を見ながら嘉麻市の生涯学習課の方から戦中戦後の人々の生活について説明していただきました。また、田中松月さんと水平社についての資料や説明もあり、人権についての理解が深まったのではないかと思います。

平和祈念館見学と食事のあとは旧伊藤伝右衛門邸にも足を延ばしました。参加者はそれぞれ楽しみながら見学し、交流も深まりました。フィールドワークは今後も続けていきたいと思っています。



平和の火



碓井平和祈念館

「差別のない明るく住みよい
西都のまちづくりを目指して」

西都校区人権尊重推進協議会

西都校区人権尊重推進協議会は12月8日(日)に人権のつどいを開催しました。

今年は、福岡市で活躍されている太極拳インストラクターの王子敏さんをお招きし、講演そして太極拳を披露していただきました。

日本語を学ぶために、22年前に中国より来日された王さん。当初は、文化の違いに戸惑うこともあったそうです。その中で太極拳を教え、人の輪が広がっていききました。新型コロナウイルス感染症により苦しい状況になった時も、その輪に助けられたそうです。

王さんは、その人の優しさに感謝していました。「互いに優しさをもちつ」その大切さが、改めて感じられた時間でした。



令和6年度 入選作品 (西区内)

毎年12月の人権尊重週間にあわせて、福岡市が募集した標語やポスターのうち、西区内の入選作品を紹介します。
(今回は西区内のポスターの入選作品はありませんでした)

内浜中学校 2年 坂本 蒼太さん

違いこそ
みんなが持つてる
宝物

内浜中学校 3年 江島 柊さん

ありがとう
しっかり伝える
感謝の言葉

内浜中学校 3年 中村 隆志さん

考えよう
言葉のボールを
投げる前

編集後記

令和5年度に新しくできた西都北校区にも、昨年3月に校区人権尊重推進協議会が結成され、昨年5月に開館した西都北公民館を拠点として、様々な活動がなされています。

また、コロナ禍も明け、各校区や関係機関・団体等で人権尊重の取り組みが、活発に展開されるようになってきました。

今後も西区人権尊重連絡会議は、地域や各種機関・団体等の取り組みを積極的に支援するとともに、誰もが住みやすい、明るいまちづくりへ向けた取り組みを皆様と共に進めてまいります。